

泊小学校のスタ場!!!!

「スタ場」とは、「スタートの場」「スタディの場」「スターの場」を表しています。

2026, 2, 18(水)

第52号

那覇市立
泊小学校

校内新聞

ヒカンザクラはなぜ花ごと落ちる?!

2ページあります

~花のつくり注目してみよう!~

先週から校内でも鮮やかなピンクのヒカンザクラの花が咲き始め、青空にはえるようすが美しく見えます。

さて、桜の咲く時期になると、次のような会話が聞かれます。

Aさん:「本土のサクラはいいよね。」

桜吹雪がきれいだから。」

Bさん:「そうだね～。沖縄のサクラはツバキのように花ごとボトッと落ちるから風情がないね～」

はて、このようなちがいはどうして起こっているのでしょうか?それぞれの花のつくりに着目してみたいと思います。次の号で写真をもとに説明しますが、先ほどの会話にでてきた「ツバキ」の花の様子も確認しておきましょう。花びらとたくさんのおしべがついていますね。



花ごと落ちたツバキ



ヒカンザクラ（沖縄で普通に見られる）



ソメイヨシノ（本土で普通に見られる）

さて下の4枚の写真は、校内で咲いていたヒカンザクラです。

ツバキのように、花ごとほとりと落ちる・・・なぜそのような散り方をするのか、ちょっと花の様子を観察してみましょう。

ヒカンザクラの花をたてにさくと、下の写真のようになっています。花弁（かべん/花びら）と雄蕊（ゆうずい/おしべ）が合着（がっちゃく/くっついていること）しているのです。

だから合弁花（ごうべんか/花びらが元の部分でくっついている）のように花弁がくっついた状態で、花ごとスルッと抜け落ちてしまうのです。



ヒカンザクラ



花をたてにさく



花弁とおしべが合着



花ごと落ちる

では、ヒカンザクラに比べ、本土でよく見かけるサクラは・・・。

下の写真は、サクラ（ソメイヨシノ）の花。花弁を一枚ずつていねいに外してみると・・・。

完全な離弁花（りべんか/花びらが一枚一枚離れている）になっています。それで、花が散るときに、花弁が一枚一枚風で飛ばされていくのです。ヒカンザクラと違い、ハラハラ散る桜吹雪はこのタイプの花のつくりをしているのです。

ここではソメイヨシノを例にあげましたが、エドヒガンやサトザクラ、ヤエザクラ、オオシマザクラ、カワヅザクラなども同様な花のつくりをしています。



ソメイヨシノ



花弁を外す



花弁とおしべは離れる



花弁が落ちる



見つけられるかな？

右の写真、校庭のヒカンザクラには、時々下のような鳥がきて、花のみつや花粉を食べます。

目のまわりが白いので「メジロ」という名前がついています。「チー、チー」と鳴いていますよ。

